

心の杜ふれあい多目的広場(心の杜近隣公園)再整備基本計画（案） 【概要版】

【目次】

1. はじめに	1
1.1. 策定の目的	1
2. 現況把握	1
2.1. 上位関連計画の整理	1
3. 敷地分析	1
3.1. 広域的条件の分析	1
3.2. 対象地における問題点・課題の分析	2
4. 計画内容の検討及び方針設定	3
4.1. 公園のテーマ及び基本方針の検討	3
4.2. ゾーニングの検討	5
4.3. 施設配置計画の検討	6
5. 鳥瞰図の作成	7



令和 7 年 3 月
門川町

1. はじめに

1.1 策定の目的

本計画の策定は、心の杜ふれあい多目的広場(心の杜近隣公園)全体の一体的な再整備を検討するにあたり、遊具などの公園施設や憩いの場の新たな配置等の見直しを行い、再整備基本計画を策定することで、再整備実現に向けた指針を整理することを目的とした。

2. 現況把握

2.1 上位関連計画の整理

対象地の位置付けを把握するために、下記の上位関連計画を収集・整理した。方針検討にあたり考慮すべき事項及び収集した各種計画の概要を以下に示す。

表 2-1 収集した上位関連計画

名称	作成機関、時期
都市計画に関する基本方針	宮崎県、平成 29 年 3 月
東臼杵・西臼杵圏域 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針	宮崎県、令和 4 年 6 月
第 6 次門川町長期総合計画	門川町、令和 3 年 3 月
門川町都市計画マスタープラン	門川町、平成 27 年 3 月
第 2 次門川町環境基本計画	門川町、令和 5 年 3 月
門川町地域防災計画	門川町、令和 5 年 6 月
ハザードマップ	門川町

3. 敷地分析

3.1 広域的条件の分析

3.1.1 土地利用

(1) 用途地域

当公園は都市計画区域内の近隣公園として位置付けられている。

(2) 施設分布

公園を利用する主要な年齢層として、門川町内の小学校及び保育園・幼稚園の位置を下図に示す。
当公園は、町内の保育園による遠足や運動会で使用されていることや、町外から子連れで訪れる親子が多いことから、未満時（3 歳以下）への対応に対するニーズが高いと考えられる。

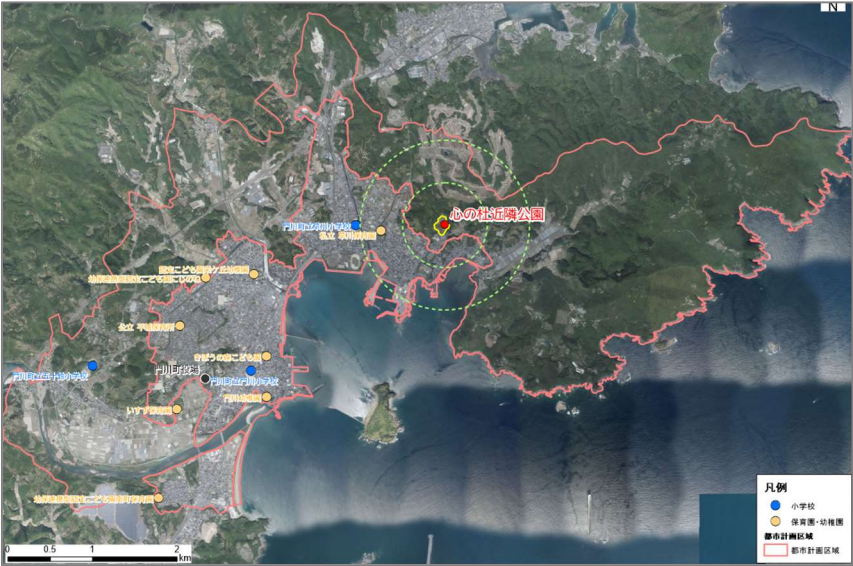


図 3-1 小学校及び保育園・幼稚園の立地状況

3.1.2 災害ハザード

当公園区域内での災害ハザードは指定されていない。

また、周辺にある「かどがわ温泉心の杜」及び「ふれあい地球館」が避難場所または避難所に指定されているため、当公園が避難所として使用される可能性は低いと考えられる。

ただし、津波ハザードマップにて、当公園の芝生広場が“ヘリポート”として位置付けられているため、計画検討時には留意する必要がある。

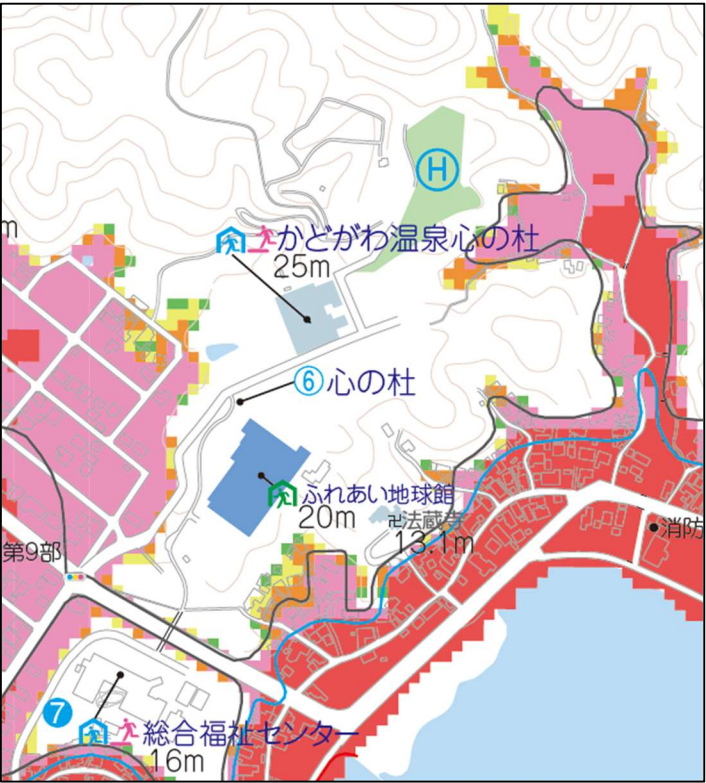


図 3-2 津波ハザードマップ

3.1.3 対象地周辺の公園

周辺公園と機能が類似しないよう、近隣の公園を対象に、施設の配置状況を調査した。調査した公園の一覧を以下に、位置図を次頁に示す。

表 3-1 近隣の公園一覧表

公園名	主な施設
門川海浜総合公園	陸上競技場、野球場、テニスコート等
須賀崎街区公園	ブランコ、すべり台、鉄棒、回転遊具
加草街区公園	ブランコ、すべり台、回転遊具
庵川西近隣公園	コンビネーション遊具、回転遊具
庵川西街区公園	コンビネーション遊具、ブランコ、砂場



図 3-3 位置図

3.2 対象地における問題点・課題の分析

現況把握及び敷地分析の結果を踏まえ、計画内容を検討するにあたり以下の点に留意する必要がある。

●災害の観点をどこまで考慮するか

- 防災上の位置付けは“ヘリポート”
- 周辺に避難所・避難場所、防災倉庫（かどがわ温泉心の杜の第2駐車場）があるため、避難所となることは想定しにくい
- 近年の社会情勢を考慮すると、公園に防災機能を求められることも多い
- ⇒周辺の状況や地域の実情を総合的に捉え、当公園の位置付けを検討する必要がある

●いかに周辺公園との機能分担・差別化を図るか

- 周辺には街区公園、近隣公園及び総合公園があり、総合公園は遊具をリニューアルしたばかりであり、インクルーシブ遊具を導入している
- 総合公園とは比較的距離も近いので、それぞれで異なる特色を示したい
- ⇒周辺の公園が有する機能を把握したうえで、当公園ならではの機能を位置付ける必要がある

●メインターゲットをどう設定するか

- 当公園は“近隣公園”であるため、本来は誘致距離 500m を目安とした近隣住民の利用に供することを目的とするものである
- ただし、現状は町外からも利用者が多く訪れており、40 台ほどある駐車場も休日は満車になるほどである
- ⇒誘致距離に限らず、現状の利用状況を考慮した施設規模を検討する必要がある

4. 計画内容の検討及び方針設定

公園の現況や検討課題を踏まえ、以下の手順で計画内容を検討した。

●公園のテーマ、ゾーニング案の検討

- ・上位関連計画において、都市公園に求められる機能を踏まえて、当公園のテーマ及び基本方針を検討
- ・基本方針に基づき、必要な機能を配置したゾーニング案を2案作成

●第1回ワークショップを開催

- ・テーマ、基本方針、ゾーニング及び導入施設について説明を行い、意見を諮った
- ・現況に対して、景色の良さは評価が高く、トイレや日差し対策は評価が低かった
- ・今後の計画については、映えスポットやバスケットコート、草スキー、水遊び場などを求める声が多くあった

●ワークショップ結果を踏まえた計画案の修正

- ・第1回ワークショップの結果を踏まえ、ゾーンごとの考え方を改めて整理
- ・導入機能・施設を具体化し、イメージ写真を添えた計画案を作成

●第2回ワークショップの開催

- ・第1回ワークショップの結果を踏まえて修正した計画案及びイメージについて説明を行い、意見を諮った
- ・今後の公園利用上のルールについて、意見を諮った
- ・展望台ブランコや屋根付き休憩所は評価が高かった。一方、ブランコや水遊び場を求める意見が多くあった

●基本計画の作成

- ・検討経緯を踏まえ、ゾーニング及び施設の配置計画を再考し、基本計画を作成

4.1 公園のテーマ及び基本方針の検討

4.1.1 与条件の整理

(1) 防災上の位置付け

当公園の防災上の位置付けを整理するため、下記の確認を行った。その結果、当公園ではヘリポートの運用は続けるものの、防災拠点としての活動は想定しないものとした。

〈確認事項〉

- ヘリポートを運用するうえで、施設の配置や利用形態に規制があるか
→45m×45mのスペースを確保し、その周辺に高さ15m以上の施設を建てないこと
→芝生エリアではなくても良いが、駐車場との兼用は不可（車があることで緊急時対応の支障となるため）
- 当公園を災害時の活動拠点や避難場所として利用する想定があるか
→「かどがわ温泉心の杜」が避難所であるため、当公園を避難場所として利用することは想定していない
→「かどがわ温泉心の杜」の第二駐車場に防災倉庫があり、駐車場スペースも確保できているため、災害時の活動拠点とすることも想定していない



図 4-1 第二駐車場の様子

(2) メインターゲットとなる利用者層の設定

現状の利用状況を踏まえ、町内外の子育て世代をメインターゲットとした。

(3) 上位関連計画を踏まえて考慮すべき事項

前述でも整理した通り、上位関連計画の内容を踏まえ、下記事項を考慮した方針を設定する必要がある。

〈考慮すべき事項〉

- 防災、スポーツ、レクリエーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン
- 緑の保全と創出
- 憩い、休息の場としての機能

4.1.2 テーマ及び基本方針の設定

これまで検討してきた事項を踏まえ、公園のテーマ及び基本方針を設定した。
公園のテーマ、基本方針及びテーマ設定の意図を以下に示す。

【テーマ】

人が集い、地域がまとまる憩いの空間

【基本方針】

- ◇子育て世代が安心・安全に遊べる空間の創出
- ◇地域コミュニティの拠点となる空間の創出
- ◇緑によるくつろぎ空間の創出
- ◇平常時・災害時における防災活動に資する空間の創出

【テーマ設定の意図】

『人が集い』

子育て世代が安心して遊べることにより、町内外の子どもたちが集まり、その友達・家族も自然と集まる公園

『地域がまとまる』

人が集まることによって、地域コミュニティの拠点となり、地域がまとまる公園

『憩いの空間』

地域コミュニティの拠点を包む緑豊かな環境が、公園利用者を癒す公園

4.2 ゾーニングの検討

第1ワークショップにおいて、にぎわいゾーンを年齢層で分けることへの評価が高かったことも踏まえ、ゾーニングは下記のように設定した。

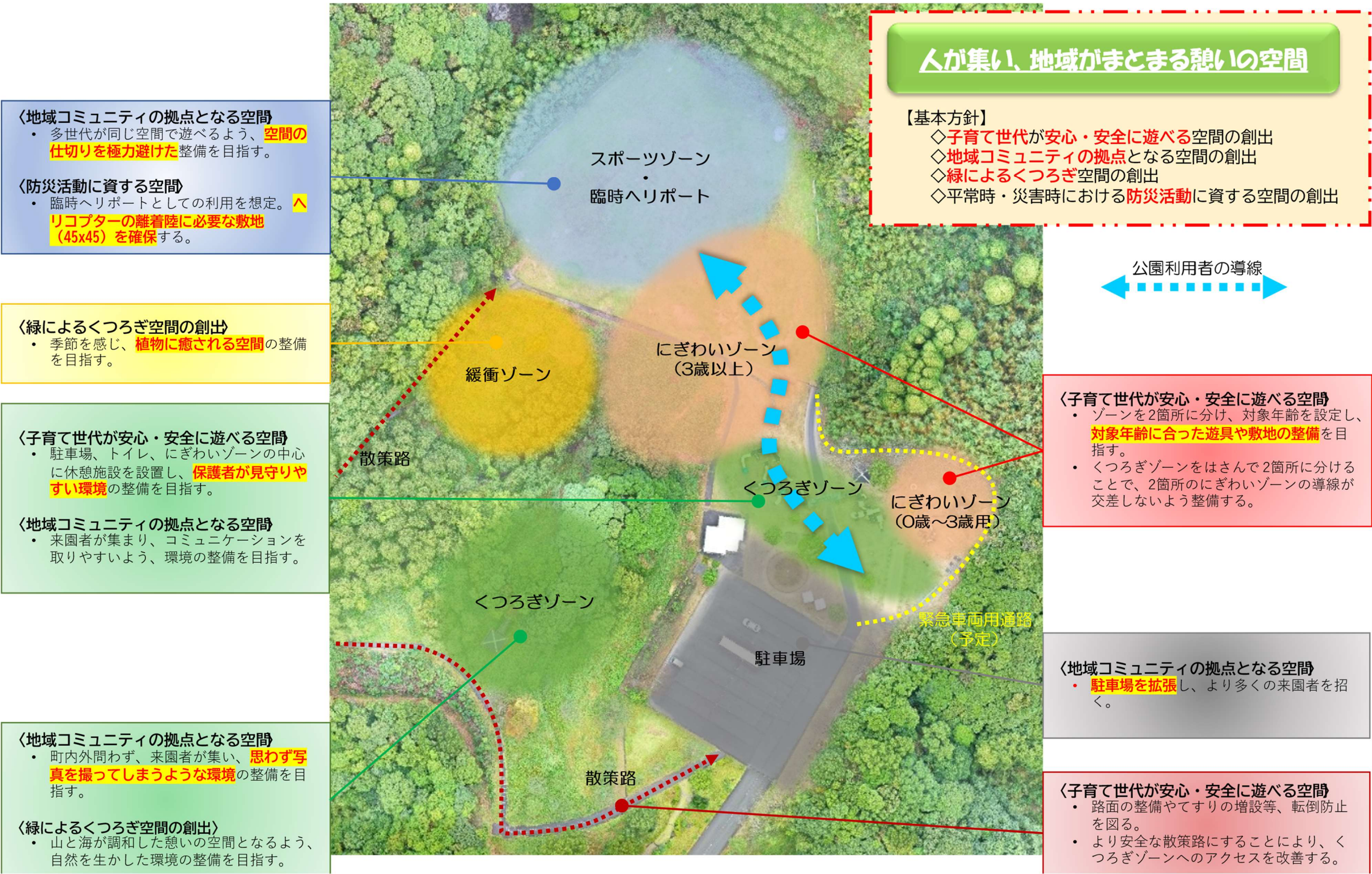


図 4-2 破損箇所位置図 (正面)

4.3 施設配置計画の検討

第2回ワークショップにおける意見及びその後の発注者との協議により、基本計画における施設配置計画を下記のように設定した。

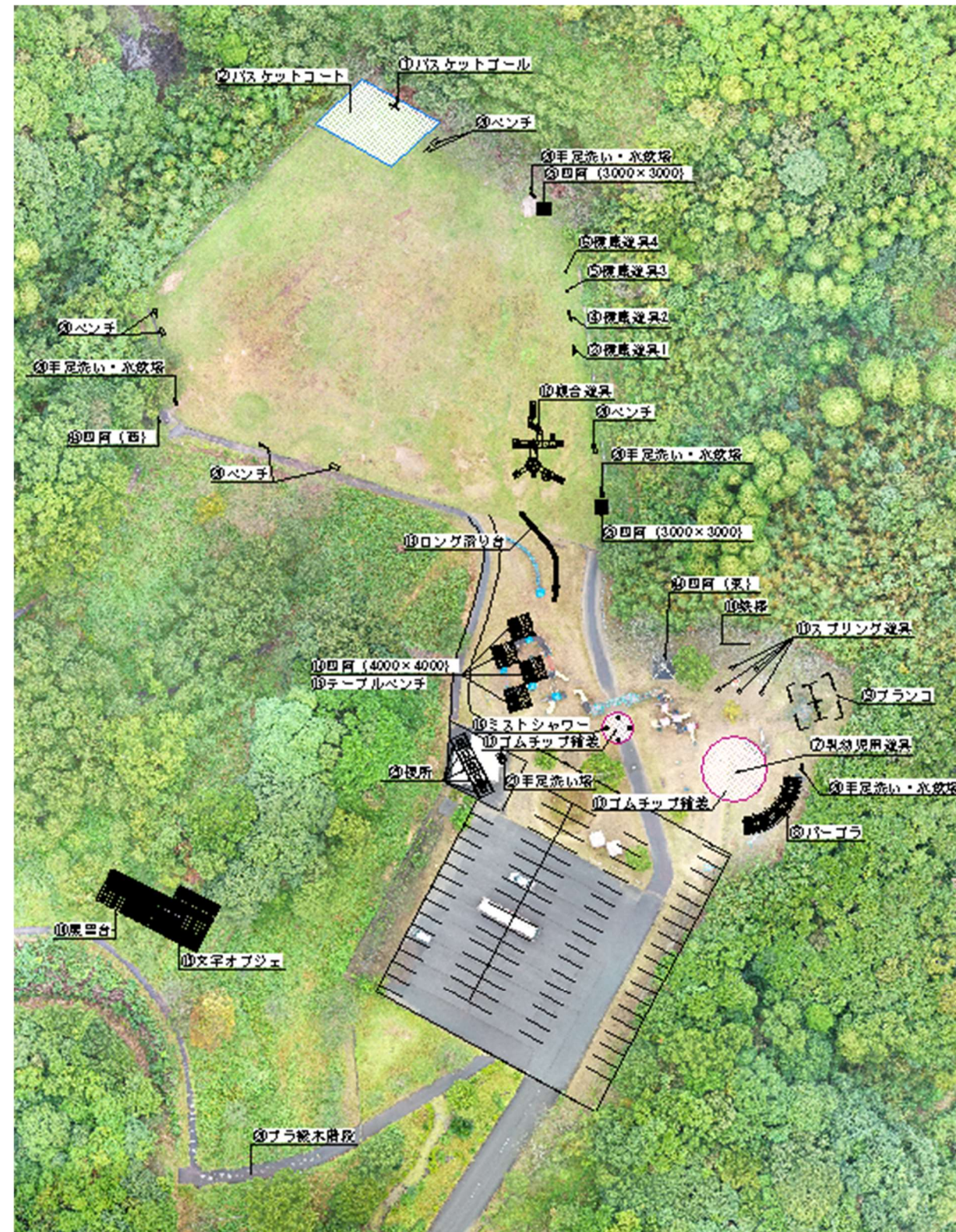


図 4-3 施設配置計画図

5. 鳥瞰図の作成

作成した基本計画図の内容に基づき、鳥瞰図を作成した。



図 5-1 鳥瞰図